

国語

(全17ページ)

注意事項

- 一 受験番号・氏名および解答は、すべて定められたところに記入しなさい。
- 二 問題用紙に解答を書きこんでも採点されません。
- 三、や「」などの記号は、特別の指示のない限り一字と数えます。

例

し
か
し
、
で
あ
る
。

一、次の各問いに答えなさい。

問一 次の〱線部の、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① フルトをエンソウする。
- ② 部屋に私物がサンランしている。
- ③ 川に釣り糸をタらす。
- ④ 綿密な計画を立てる。
- ⑤ 神社に参拝する。

問二 次の各組の熟語の中で、組み立ての異なるものを、ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 熱意 イ 花束 ウ 寒空 エ 受賞 オ 年収
- ② ア 進退 イ 価値 ウ 保養 エ 収納 オ 停止
- ③ ア 営業 イ 直角 ウ 延期 エ 観劇 オ 閉幕
- ④ ア 未満 イ 無数 ウ 非情 エ 不覚 オ 可否
- ⑤ ア 官製 イ 歯痛 ウ 予知 エ 日照 オ 私立

問三 次の□に身体の一部を表す漢字一字を入れて、下の意味を持つ慣用句を完成させなさい。

- ① □をそばだてる…熱心に注意をして聞くこと。
- ② □に衣着せぬ…率直に言うこと。
- ③ □をこまねく…何もせず、そばで見ていること。
- ④ □車に乗る…相手に言いくるめられて、だまされること。
- ⑤ □を巻く…感心したりおどろいたりすること。

問四 次の□に漢字一字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

- ① 空前□後
- ② 意味□長
- ③ 針小□大
- ④ 一刀□断
- ⑤ 以心□心

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二〇二二年八月九日、東京オリンピック閉会式の翌日に、国連の気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change、IPCCと略される）の第一作業部会が「気候変動―自然科学的根拠」と題する第六次報告書（AR6）を発表した。前回の報告書から八年ぶりだ。これは、これまでに世界中の研究者たちが実施してきた研究、書いてきた論文を総合した報告書である。

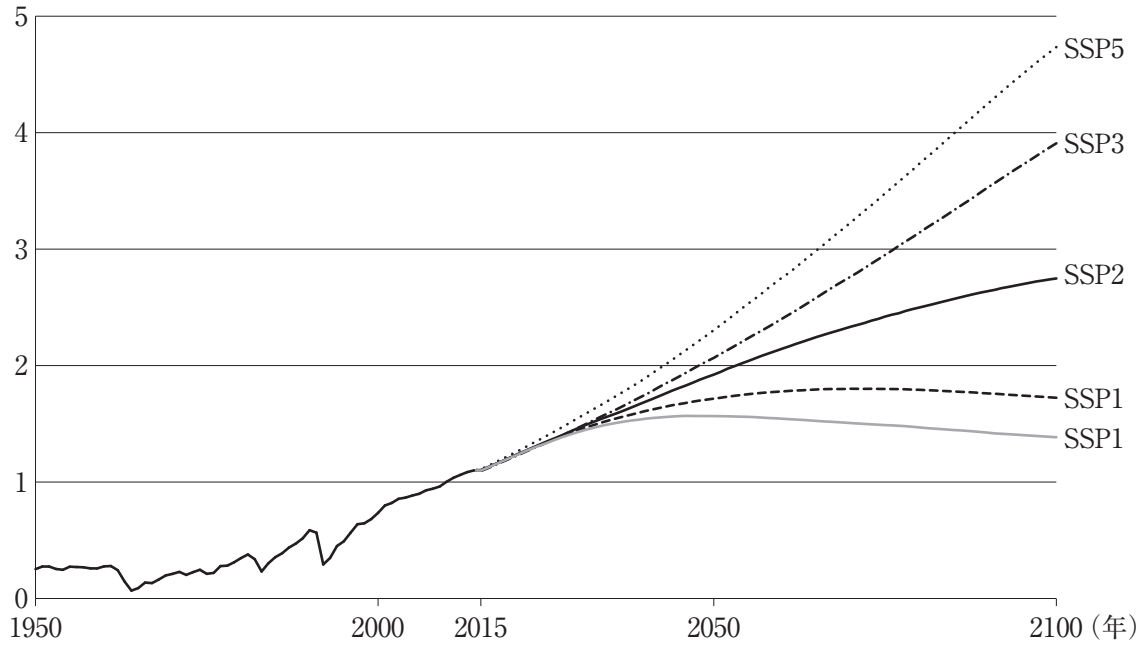
この報告書では、地球が温暖化していることについては確実で、それが人間の活動のせいであることは「疑う余地がない」と明記されている。このように、すでに生じている気候変動について、そしてこれから予期される気候変動について、これまでよりも踏み込んだ報告となっている。ちなみにIPCCの報告書は過去に五回発行されている。初期の報告書は人間活動の影響による気候変動の可能性について淡々と説明するだけだったけれど、二〇〇一年に発行された第三次報告書ではじめて、「温暖化の主な原因が人間活動である『可能性が高い』との発表を行った。その後、二〇〇七年の第四次報告書ではその可能性は「非常に高い」、二〇一三年の第五次報告書では「極めて高い」という表現に変わってきた。人間のせい温暖化が起こっていることについての確信の度合いを強めていった。そしてついに、第六次報告書では「疑う余地がない」となった。地球の気温を変化させる要因としては、太陽活動の変化や火山の噴火など自然の要因がいろいろあるけれど、人間の影響なしですでに

生じている温暖化を説明することはできないということだ。これで僕らは、「ほんとうに温暖化は起こっているのか?」「温暖化はほんとうに人間のせいなのか?」という議論から、「将来どれだけ温暖化するだろう?」「温暖化を抑制するために何をすればよいだろう?」という議論に本格的に移るべきときが来た。

さて、温暖化を止めるためにどんな対策が行われているだろうか。地球温暖化の抑制を目指して二〇一五年に締結されたパリ協定で、温暖化による気温上昇を二℃以内、できれば一・五℃以内にとどめようと各国は合意した。後述するが、気温上昇をこの範囲内にとどめることで、人間社会や自然環境に対する温暖化の影響をギリギリ最小限のレベルに抑えられると考えられるからだ。しかし、現状は、パリ協定の達成がとても怪しい状況となっている。図1は、今世紀中の気温の変化を予測したものである。

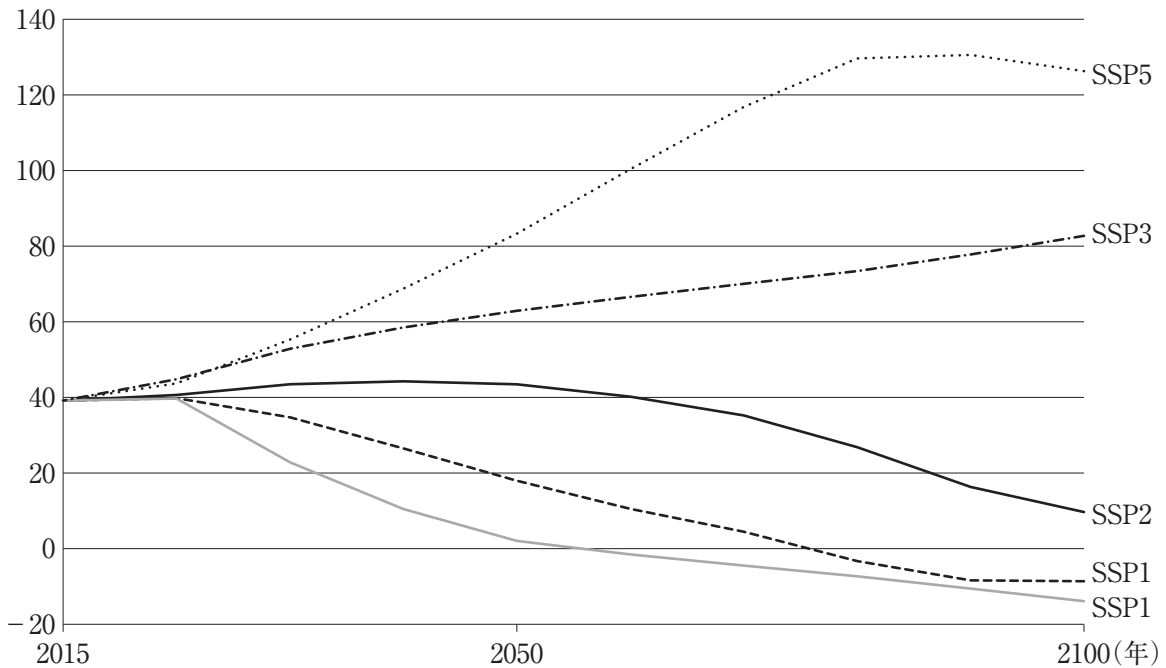
※2 図2は一八五〇―一九〇〇年、つまり一九世紀後半の気温を地球温暖化前と設定し、その期間の平均気温との比較で温暖化の強さを考えている。未来を予測する部分で、線が五本に枝分かれしていることに気づくだろう。これは、SSPによる予測結果の違いを表している。SSPとこののは、共通社会経済経路（Shared Socioeconomic Pathways）のこと。これからの世界の社会や経済がどうなるかによって、未来の温暖化は大きく異なるのだ。SSP1は、世界の人びとが力を合わせて化石燃料からの脱却を図るという理想的なシナリオだ。この図では、下の二本がSSP1に属している（二本のラインが微妙に違うのは、このシナリ

【図1】 今世紀中の気温の変化予測（℃）



1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化。今世紀末の温暖化は、最小では1.5℃程度、最大では5℃程度と予想されている。（出典：IPCC AR6 政策決定者向け要約をもとに作成）

【図2】 年間の二酸化炭素排出量（GtCO₂/yr）



【図1】のSSPに対応する世界の二酸化炭素排出量。（出典：IPCC AR6 政策決定者向け要約をもとに作成）

オ内でのさらに細かな違いによる)。これからの世界がSSP1で描かれるような世の中になれば、地球温暖化は2℃以内、さらに理想的には一・五℃以内にとどめられ、気温上昇の悪影響は、ゼロではないものの最小限にとどめられると期待できる。

A、そのほかのシナリオは、大変悲観的である。たとえば、SSP3やSSP5は世界の格差が広がるシナリオで、発展途上国は貧しく教育水準も低く、人口は増加し続ける。このような社会情勢では世界全体での温暖化対策は効果を発揮するのが難しいのだ。ある程度豊かじゃないと、環境のためにお金を使うことはできない。発展途上国が貧しいままだと、二酸化炭素排出量が特によくなる石炭などを主要なエネルギー源にせざるを得ず、温暖化が加速してしまう。このように、未来の世の中がどうなるかによって、温暖化の深刻さは大きく異なってくるのである。

この本では、環境科学は「学際的」な学問であることを学んでいる。温暖化の未来予想には、学際的な視野が必要とされている。ひたすら「石炭石油を使うな、使ったら高い税金をかける、罰則をきびしくする」と言うだけで温暖化は止まるものではないのだ。世界にはいろんな国があり、それぞれ事情が違う。日本のような先進国では有効なことでも、その手法が発展途上国でも使えるとは限らない。「発展途上国」という言葉があらわすように、これらの国は、なんとか先進国に追いつこうとしている。③そんな国々に「石炭石油を使うな、森林伐採をするな」と命令したところで、まともな効果は生まれない。「日本やアメリカは、これ

までさんざん石炭や石油を燃やして森林を伐採しまくった結果先進国になったのではないか。我が国がおなじことをするのを禁じるのは不平等だ」と言われてしまうのである。そう、発展途上国には発展する権利があり、その可能性をうばってはならない。無理やりその権利を奪おうとしても、それはできない。想像してみてほしい。読者のみなさんがいままさに飢えや病気に苦しんでいる状況だとして、果たして世界の環境を守るために逆境を甘んじて受け入れることはできるだろうか。もし僕がそのような状況に置かれたら、がまんするのは難しいと思う。温暖化で世界の環境を破壊している罪深い先進国の人びとが快適で気楽に暮らしているのに、まずしい自分ががまんを強いられるなんてまっぴらごめん。暖を取るため、食べものを炊事するためにそのへんの木を切って燃やすだろう。石炭が手に入るなら喜んで燃やすだろう。絶滅危惧種の動物だつて殺して食べてしまうだろう。

このように、先進国と発展途上国が分断され対立していると、発展途上国の経済はいつまでもたつても中途半端なままで、だからだと二酸化炭素を排出し続ける。これがSSP3やSSP5の示唆するものなのだ。温暖化の被害を最小限で食い止めるためには、発展途上国を發展させてあげることが重要なのである。最近の日本人は、「自己責任」とか「自助努力」という言葉をよく使う。気安く他人に頼るな、自分のことは自分でせよ、貧しいのは努力が足りないからだ、という風潮になっている気がする。僕はこのような考え方に干渉するつもりはない。ある意味当然な考え方だとも思う。しかし地球温暖化を考える際、共有地である大

気に壁をつくることはできない。発展途上国の二酸化炭素排出が日本に悪影響を及ぼすことになるのだから、僕ら日本人は発展途上国に支援をすることで、自分たちの身を守る必要があるのだ。

【中略】

④ 温暖化で、具体的にどのようなことが起こるのか。世界の平均気温が上昇することに加えて、異常気象などの極端現象の回数が増えることが予期されている。世界が本格的な産業革命に突入する前の一九世紀後半の五〇年間に発生した最も気温の高い日を、「五〇年に一度の異常気象」と定義してみよう。そうすると、地球の気温がそれから二℃上昇した場合、そのような異常気象が発生する頻度は五〇年に約一回に上昇してしまう。以前は「五〇年に一度の異常気象」とされたことが、温暖化後は三、四年に一回のペースで生じてしまうのだ。 B 温暖化が激しくなると気温上昇が四℃となった場合は、五〇年に一度の異常気象が生じる回数は五〇年間で約三九回。ほぼ毎年のペースで異常気象が発生することになる。そうなるともはやそれは異常気象と呼ばれることもなくなるだろう。まさに地球は、これまでと違うモードの気候に入ってしまったことになるのだ。そして、このような気候の変化は、熱中症や伝染病の拡大など、これまで経験しなかった問題を人類に課すことにもつながる。

(伊勢武史『2050年の地球を予測する』――)

科学でわかる環境の未来』より 一部改変)

※1 気候変動に関する政府間パネル……気候変動に関する専門家集団からなる主要機関。

※2 図2……図2は、図1のSSPが1～5の各指標を示す場合、それぞれ世界でどれだけの二酸化炭素が排出されたことになるかを表す。

※3 共通社会経済経路……社会経済の発展を仮定したシナリオ。「シナリオ」はここでは筋書き、物事の成り行きのこと。

※4 化石燃料……石油、石炭、天然ガスなどのこと。

※5 脱却……悪い状態から抜け出すこと。

※6 環境科学……人間を取り巻く環境について研究し、物理、生物、情報科学などの分野を組み合わせ、環境問題を解決しようとする学問。

※7 学際的……研究が、複数の異なる分野の学問にまたがること。

※8 逆境……思うようにならない、不運な状況。

※9 自助努力……他を頼らず、自分で困難を乗り越えようとする努力。

※10 極端現象……大雨や猛暑日など、極めてまれな気象現象。

※11 産業革命……一八世紀半ばのイギリスから始まった、産業やエネルギーの大きな変化や、経済発展のこと。

※12 モード……様式。方式。

問一

——線部①「第六次報告書」とあるが、この報告書の内容と、それについての筆者の意見として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球は確かに温暖化しているものの、その原因が人間であるとは断定できないことを指摘する内容だが、筆者は地球温暖化が人間の影響によることは確実だと主張している。
- イ 人間の活動のせいで地球温暖化が起こっていることに確信を持って説明した内容で、筆者は温暖化防止のために個人が自分の暮らしを見直すきっかけになると思っている。
- ウ 人間が気候変動に影響を与えている可能性について説明している内容ではあるが、筆者は地球温暖化の問題に本格的に対処する契機にはなり得ないと感じている。
- エ 地球温暖化は確実に進んでおり、その唯一の原因は人間の活動であることについて言及する内容で、筆者はこれまでの報告書よりも踏み込んだ報告内容だと評価している。
- オ 地球温暖化が人間の活動の影響で生じていることは確実だと述べる内容で、筆者は将来の温暖化の予測やその対策について本格的に議論されるべきときが来たと考えている。

問二

——線部②「今世紀中の気温の変化を予測したものである」とあるが、本文および図1・2から読み取れる内容として正しいものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア SSP1は世界が協力して化石燃料からの脱却に成功した場合のシナリオで、二一〇〇年には、世界の年間の二酸化炭素排出量を二〇一五年の半分に減らすことになる。
- イ 現在、パリ協定の達成はとも怪しい状況になっており、図1・2から地球環境はSSP5の悲観的なシナリオをたどり始めていることが読み取れる。
- ウ 理想的なシナリオをたどっても、二一〇〇年には一九世紀後半の気温より一℃以上上昇すると図1で予想されているが、実現すればパリ協定はおおむね達成できることになる。
- エ SSP3は世界の格差が広がるシナリオだが、図2から読み取れるように、二酸化炭素の排出量の増加の仕方は緩やかなので、パリ協定を達成できる可能性はある。
- オ 二〇一五年の年間排出量と同程度の二酸化炭素を二〇五〇年まで排出し続けた場合、二一〇〇年の平均気温は一九世紀後半より二～三℃上昇し、パリ協定の達成は難しくなる。

問三

A・Bに入ることはの組み合わせとして最も適切な

ものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A しかし B さらに
- イ A そのため B けれども
- ウ A つまり B 加えて
- エ A しかも B 例えば
- オ A ただし B なぜなら

問四

線部③「そんな国々に『石炭石油を使うな、森林伐採をす
るな』と命令したところで、まともな効果は生まれない」とある
が、筆者がこのように述べるのはなぜか。そのことを説明した次
の文の□にあてはまることばを、「そんな」の指す内容を
明らかにして五十文字以内で答えなさい。

化石燃料の使用や森林伐採は、□から。

問五

線部④「温暖化で、具体的にどのようなことが起こるのか」
とあるが、筆者は世界の平均気温の上昇のほかに何が起こると考
えているか。本文中のことばを使って五十文字以内で答えなさい。

問六

本文を通して筆者が述べていることとして最も適切なものを、次
のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球全体で二酸化炭素の排出量を減らすにあたって、まず先
進国が化石燃料からの完全脱却をすることで、発展途上国は
無理のない範囲で排出量の削減に取り組むことができる。
- イ 世界が協力して化石燃料からの脱却を図り、パリ協定を達成
できれば、地球温暖化による悪影響は全てなくなり、環境を
守ることができるが、現状では達成が怪しくなっている。
- ウ 現代の日本にはびこる自国を優先させる風潮は理解できるが、
温暖化が進んだ後の気候の変化に適應していくためには、先
進国と発展途上国が足並みをそろえる姿勢が必要である。
- エ 二酸化炭素排出量を減らし地球温暖化を防止するには、同じ
地球を共有する者同士として先進国が発展途上国に歩み寄り、
経済状況の改善のために支援することが重要である。
- オ このまま先進国と発展途上国が分断され続けると、発展途上
国だけでなく先進国の二酸化炭素排出量の削減にも支障を来
すので、各国の対立を緩和することが最大の課題である。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

イタリアのローマで生まれ育った圭人は、古い町並みをスケッチするのが好きな中学生である。家庭の事情で日本に帰国した圭人は、住みなれた土地を離れて引越してきた東京でも、スケッチしながら歩きまわる日々。そんなある日、忍者のような姿の人が、スプレー缶を持ちダイナミックに落書きしているのを見つける。悪いことだと思いつつも、迷いなく描かれるスプレーアートに圧倒されたところ、その人物に自転車を盗まれてしまう。この日、圭人は早朝から落書き犯をさがして町へとやってきました。

あの落書き犯、いや、自転車泥棒は、たぶん早朝に落書きをするだろうという気がしている。夜は警戒がきびしくなったようだし、日中は人が多すぎる。今回はまだパトロールのおじさんたちも寝ているような早朝をねらうのではないか。

ホット缶コーヒーを飲みながら、圭人は今、工場現場から少しはなれた自販機のかげにかくれて見張っている。犯人が来ても、こっちは見えないはずだ。

しかし、敵はなかなか現れない。六時前にここに着いて、もう四十分過ぎてしまった。さすがにつかれてきたし、腹も減ってきた。

当てが外れたかもしれない。七時を過ぎると、このあたりもだんだん人が多くなってくるだろう。いくらなんでも、通勤で人が行きかう時間に落書きをするわけがない。

飲みほした缶をゴミ箱に入れて立ち去ろうとしたそのとき、聞きおぼえのあるブレイキ音が聞こえた。ていねいに手入れしても取れなかったあのブレイキ音だ。

あわててまた自販機の後ろにかくれて、かげから顔を出した。

いた。あいつだ！

ちゃっかり人の自転車に乗ってきて、それを仮囲いに立てかけて、あつという間にスプレー缶をにぎりしめた。

圭人は足音を立てずに近づいていく。

自転車にたどりつくには落書き現場を通りこさないといけない。

シューシューふきつけるのに夢中になっている相手の背後を、そっと歩く。

しかし背後を通りすぎるとき、立ちどまって絵を見たくなくなってしまった。

前回同様、落書き犯はものすごいスピードでいいかげんにふきつけているように見えるが、実は計算しつくしているのかもしれない。

まったくミスがない。すばらしく腕がいい。つい、見とれてしまう。

自転車泥棒がちらつとふりむいて、圭人に気づいた。相手はあわてて半がけにしていたバックパックにスプレー缶を放りこみ、立てかけてあった自転車のほうに行こうとした。

圭人はあわてて走りより、その黒いバックパックに手をのばした。

「待てよ！ 泥棒！」

半開きだったバックパックのファスナーがガバッと開き、スプレー缶

がひとつ落ちてカラカラと音を立てながらアスファルトを転がっていく。「ちっ」

と、そいつが言った。やけに高い声でおどろいた。やはり子どもらしい。自転車泥棒は自転車を残してダッシュで逃げていった。

主人は、反射的にアスファルトを転がっていくスプレー缶を追いかけ、拾って自分のメッセンジャーバッグに入れると、自転車にまたがり後を追った。

いくら相手が先に走りだしても、どんなに足が速くても、自転車になうわけがない。余裕で追いつけるだろうと思った。

ところが、角を曲がって大通りに出ると、やつが歩道橋を上っているのが見えた。

今ここで自分の自転車を置いて徒歩で追いかけると、だれかにまた自転車をとられるかもしれない。鍵はこわれているし、チェーンはまだ買っていないから、放置するわけにはいかない。

しかたがないから歩道橋を通りこして、横断歩道をめざす。

信号を待つて道路を渡り、さっきの歩道橋のあたりまで自転車を走らせたが、もう自転車泥棒の姿はどこにも見えなかった。

「メルダ！」

うっかりイタリア語の汚い言葉が出て、すぐに首をすくめた。

あぶないあぶない。こういうのが学校で出来ないように気をつけなきゃ。よく考えたら、ここでメルダ（クソ）なんて怒るのも変だよな。ぼくの目的は、自転車を取りもどすことだ。あいつが落書きをしようがない

をしようが、知ったこっちゃない。

第一、つかまえてどうする？

子どもを町内会のおじさんか交番につきだすのか？

そう考えると、主人はバカバカしくなってきた。

自転車泥棒をさがすのをやめて、家に帰ることにした。空腹で目がまわっていた。

自転車に乗って家に帰ると、小さな庭で祖父母がならんで朝のラジオ体操をしていた。

祖父は背がひよろひよろ高くてヤセ気味。祖母は小さくてころころ太っている。二人はいつもいっしょだ。

「あら、主人ちゃんおかえり」

「お、見つけたのか！」

自転車をさがしにいくとは報告しておいたが、防犯登録をしていないからもう見つからないだろうと言われていた。

「うん。犯人が行きそうなところで待ちぶせして、取り返したよ」

「よし、えらいぞ」

「あーら、おじいちゃんたら！ なにもなかったからいいようなものの、あぶないわよ。主人ちゃん、今度からそういうことは、やめなさい」

主人は二人を順番に見ながら、うなずいた。

「うん、でも相手は子どもだったから。あ、あとこの自転車、防犯登録をしたほうがいいかも。これ、今となってはすてきなレトロ自転車だから、とられやすいと思うよ」

「そうだな、わかった。そうしよう。でも、その自転車はおまえにあげるからな。年よりには、もうそんな重い自転車は無理だ。さあ、朝飯にしようか」

圭人はうなずいて、家の中に入った。

キッチンにはいいにおいが立ちこめていた。ローマでは、ブリオツシユ（菓子パン）とカプチーノ、ヨーグルト、オレンジのしぼりジュースというイタリア的な朝食だった。

今は祖父母に合わせて、ご飯と納豆と漬物、味つけのり、焼き魚、大根おろし、ほうれん草のおひたし、そして具だくさんのみそ汁という、ぜいたくなザ・和朝食だ。

マッテオやジョルジュが見たら「朝から夕食か！」とあきれられるだろうなど想像したら、自然と圭人の口元がほころんだ。

部屋で古いスケッチブックを整理していると、祖父が部屋に入ってきた。ご先祖にお線香をあげる時間だ。

「おや、圭人が描いたのかい？ すごいじゃないか」

すぐに祖母も来た。

「あらまあ上手なこと。さすが芸術の国で生まれ育っただけあるわねえ。それともおとうさんの血筋かしら」

二人がおおげさに反応するのがおかしくて、圭人は笑った。

「この程度描ける人はたくさんいるよ。もっとうまい中学生だっているし」

圭人の頭の中にはスプレー落書き犯人の絵がかんでいた。

あの子はぼくより年下だろう。小学生かもしれない。

もし、あの子にスプレー缶じゃなくてエンピツやペンをにぎらせたなら、いったいどれだけすごい絵を描くんだろう。

「そうかねえ？ あたしゃ、こんなふうまい絵を描く子見たことないよ」
祖母が圭人の手からスケッチブックを取って、一枚一枚を念入りに見はじめた。一枚めくるたびに「A」の声が出る。「ほお！」とか「へえ！」とか。

母も部屋に入ってきた。ローマでよくしていた赤いエプロンをしている。ほんの一瞬、ローマにいるのかと錯覚した。

「でしょ？ 前から言っているのよ。この子絵の才能があるわよね。義雄さんも……」

父の名を口にしてすぐに、母は言葉をにごした。たがいに、なるべく父の話はしないように努力している。まだ、早い。

「ぼくは、ただ、趣味で描きたいだけだよ」

期待されると重い。

好きなことが、好きでなくなるような気がする。

「そう？ もし本気で絵をやりたいなら、がんばって応援するわよ」
母が圭人をじつと見た。

「ん、オレたちも応援するぞ。たったひとりの孫だしな」

「そうそう。ほんとほんと」

①二人まで……。

「ありがとう。将来のことはゆっくり考えるけど、ずっと趣味で描きただけ。ときどき建物や風景をちよつとスケッチしたいだけだよ。それ以上じゃないんだ」

「もったいない」

「もったいないわねえ」

「ほんと、もったいない」

なんだよ三人して。

圭人は、急にイライラしてきた。

「もったいなくならないよ！」

つい、声をはりあげてしまった。

三人がびっくりした顔で圭人を見た。

「ごめん。けど、うまいのと、すごいのはちがうよ。それに、ただ好きでスケッチしたいってだけなのに、変に期待されるのはいやなんだ。^②ぼ

くのは、アートとかじゃなくて、なんていうか……」

圭人はうまい言葉が見つからないまま、スケッチブックを取り返し、ぱたんと閉じた。

ひとりになつてから、圭人はもう一度スケッチブックを手にし、バラバラとめくりながら想い^{おも}いをはせた。

スケッチをするのは好きだが、絵を描きたいのとはちがう。

ただ、すごいと思うものを写真に撮^とるみたいに、紙の上に写したいだけなのだ。スマホで撮^とってもいいが、なぜかスケッチしたくなる。

なぜスケッチをするのか。

手を動かしていると、よけいなことを考えなくていいから、というのもある。

幸い、ローマでは無料で美術館に入れたおかげで、圭人はなんども、何十回も、過去の偉大^{いだい}なアーティストの絵や彫刻^{てうく}を見ることができた。

【中略】

偉大な芸術家たちは、何百年も何千年も前に生きて、後世に作品を残した。

あれほど完成された彫刻や絵画が数世紀も前に描かれているのに、自分がなにをまだ描くことがあるんだろうと、圭人はいつも思う。

芸術の世界で頭角を現す人は、小さいころから秘^ひめているものがちがうはずだと確信している。

なにか自分の心の中のを表現したくて、ウズウズしているんだろう。

あの落書き犯の子みたいに。

ほくは、ただ、目の前の風景や建物を「切りとって」紙に収めているだけだ。

ただ圧倒され、スケッチをせずにはいられないっていうだけ。

そんな「作業」をしたいだけだ。アーティストとは、たぶん根本がちがう。

圭人と両親は、美をめぐる旅^{しよ}と称して、車でイタリア中をまわった。美術好きの両親だったのは、本当によかったと圭人はつくづく思う。

イタリアに住んでいなければ一生かかっても見きれないほどの古代遺跡^{いせき}

や美術、建築物を見ることができた。

普段は外食もせず質素な暮らしをしていたが、父の観光関係の仕事が減るローシーズンになると、よく小さな旅をした。

父の車の中で一泊したこともあるし、安いB&B（朝食つきの宿泊施設）を利用して、あちこちへ行った。

父はもともと美術分野の人だったし、観光ガイドをやっていたこともあって、遺跡や美術品にとでもくわしく、ていねいに説明してくれた。

【中略】

国外を旅するときも、毎回美術館や遺跡を中心にまわった。ロンドンの美術館や博物館は基本無料だが、入り口で寄付をつのっているところもある。素通りできないほどB的なところもある。こっちが日本人だからか？ と、主人はムツとしたことすらあるが、そういうとき、いつもはケチなはずの父が、気前よくお札を投げこんでいた。美術館や博物館に敬意を表していたのだ。

父のおかげで傑作を見過ぎたせいか、自分がアーティストになろう、なれる、なりたいなどと考えたことは一度もない。

ただ、見ていたい。それだけだ。

（佐藤まどか『スネークダンス』より 一部中略）

※1 仮囲い……工事の間、周りに設置する囲い。

※2 バックパック……リュックサック。

※3 メッセンジャーバッグ……自転車で移動する人によく用いられる肩かけのかばん。

※4 レトロ……古い時代のよさを感じさせるもの。

※5 マッテオやジョルジュ……主人のイタリアでの友だち。

※6 父の話……主人の父は半年前に亡くなっている。

問一 本文中のXで示した部分から、落書き犯の Spreuer-Art に魅了される主人の姿が読み取れる。高い技術に圧倒された主人は、落書き犯の子をどのような人物だと評価しているか。「表現」「頭角」という二つのことばを必ず用いて五十字以内で答えなさい。

問二 A・B に入ることばの組み合わせとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	A	感激	B	魅力
イ	A	感嘆	B	威圧
ウ	A	驚嘆	B	普遍
エ	A	賞賛	B	客観
オ	A	困惑	B	高圧

問三 ——線部①「二人まで……」とあるが、このときの主人の気持ちを、本文中のことばを使って六十字以内で答えなさい。

問四

——線部②「ぼくのは、アートとかじゃなくて、なんていうか……」とあるが、圭人にとってスケッチとはどのようなものか。本文中のことばを使って四十字以内で答えなさい。

問五

この文章からは、イタリアでの生活が圭人自身にどのような影響を与えたことが読み取れるか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ローマの美しい町並みに親しんだ圭人にとってスプレーアートは許しがたく、犯人を交番につきだす使命感にかられた。
- イ 精神的に豊かだったローマでの暮らしの思い出は鮮やかで、圭人が日本での暮らしになじめない原因になっている。
- ウ 美をめぐる旅を通して、圭人は偉大な芸術家の作品を観る喜びやスケッチの楽しさを知り、将来の夢も方向づけられた。
- エ イタリア生活は圭人に偉大なアーティストの傑作に触れる喜びを与えたが、自身の才能への冷静で厳しい目も育てた。
- オ 圭人は日本になじむ努力をしているが、心の奥ではイタリアを懐かしく思っているため、時々イタリア語が出てしまう。

四、次の資料や意見文を読んで、後の問いに答えなさい。

【資料Ⅰ】

食の^{※1}エシカル¹のテーマの中で、環境問題と並んですぐに連想されるのがフェアトレード。日本でも、フェアトレードのチョコレートやコーヒー製品をみかけることがあると思う。ただ、これを買うと生産者が助かるのだろうか、どんな仕組みなのだろうかと疑問を持つ人もいるだろう。フェアトレードを「公正な貿易」と訳すとすると、その反対の不正な貿易も存在するということになる。21世紀にもなり、これだけ情報が飛び交う世界でまだそんな格差があるの？と思うかもしれないが、残念ながら世界には不公正な貿易が蔓延している。たとえば取引相手が文化的な生活をできるギリギリの線の価格まで買い叩き、学校に行くべき児童も労働にかり出さねばならない状況に追い込むような取引だ。

「そんな相手と取引せず、他の買い手を探せば？」と思うかもしれないが、たとえばカカオ豆の産地は山間部の森の奥の奥。生産者はマーケットと切り離されて、他の客を探すことは現実的ではない。また、カカオの価格は国際的な市場の相場で決定されており、そこに「生産者が食べていけるか」という要素はほとんど考慮されていない。結果、一家総出で働きながら、ギリギリの生活を続けていくしかないという生産者が多くなってしまうのだ。

現在、極度の貧困にあえぐ人は8億人以上、奴隷的な労働を課されている人は4000万人以上、義務教育を受ける権利を奪われる児童労働

は1億5200万人(2016年)。そして、2020年9月時点で77カ国155品目が児童労働や強制労働によって作られているという調査がある。だから、フェアトレードが必要なのだ。

フェアトレードは、開発途上国の商品と生産者とその地域が発展できる価格で買う取り組みで、1940年代に欧米で生まれた。当初はさまざまな取り組みや団体があったが、30年ほど前に認証(ラベル)の仕組みができ、現在ではフェアトレード・インターナショナルという組織が国際的なフェアトレードの仕組みを運営している。

国際フェアトレード基準のもっとも大きな特徴は、商品ごとに「公正な価格」が設定されていること。たとえばアラビカ種のコーヒー豆であれば、最低価格が1ポンドあたり140セント。それが生産者にとって安定して暮らせる最低ラインで、国際的な市場価格がどんなに下がったとしても、これ以下にはいけない。この価格は、産地を入念に調査して決定された価格で、カカオやスパイスなどすべての品目のフェアトレード価格がインターネットで公開されているので、興味があればご覧いただければと思う。

国際フェアトレード基準のもう1つの特徴が、フェアトレード価格に加えて「プレミアム」というお金を支払うことだ。プレミアムは商品代金とは別の扱いで、その産地の組合などで合議し、地域の発展や品質向上などに使うためのもの。たとえば地域に学校を建てたり、橋を造ったり、機械を買うなど、生産者たちが生活を向上させるために使えるのだ。フェアトレード価格で個々人の生活を営む十分な価格を保証した上で、

プレミアム分で産地全体の文化や生活水準を向上させる投資をするという仕組みである。

こうしたフェアトレードの認証製品は現在130カ国以上で流通している。でも、コーヒーやカカオを買う側のメーカーや販売業者は、ほんとうに生産者にフェアトレード価格を支払っているの？ そうした疑問に答えるための仕組みが認証システム。第三者の認証機関が取引をきちんと監視し、生産者にきちんと支払われているか、生産者がプレミアムを正しく使っているかなどを確認している。国際フェアトレード認証ラベルがついているものは、この認証を取得したものと考えてけっこうだ。

ラベルはないけど、フェアトレードと書いてある商品は信じていいの？ フェアトレード・インターナショナル以外にもいくつかの信頼するに足る国際組織がある。一方でフェアトレードを謳いつつ、一般的な価格しか支払っていないインチキヤ、イメージをよくするためにフェアトレードとウソをつく業者もいるかもしれない。そのフェアトレードの中身をきちんと調べてみることも必要だ。

現在、日本で手に取ることができるフェアトレード認証ラベルがついた製品はおよそ1200点。コーヒーや紅茶、チョコレートにオリーブオイル、砂糖にスパイス、ゴマにバナナなどの食材のみならず、サッカーやバスケット競技に使うボール、タオルやシャツなどのコットン製品など、さまざまだ。オーガニックの産品だったり、美味しいことで有名なものもあつたりするから、ぜひ買ってみたい。これを食べることで自分のエネルギーになり、また産地の人達の生活を支えることにもなる。

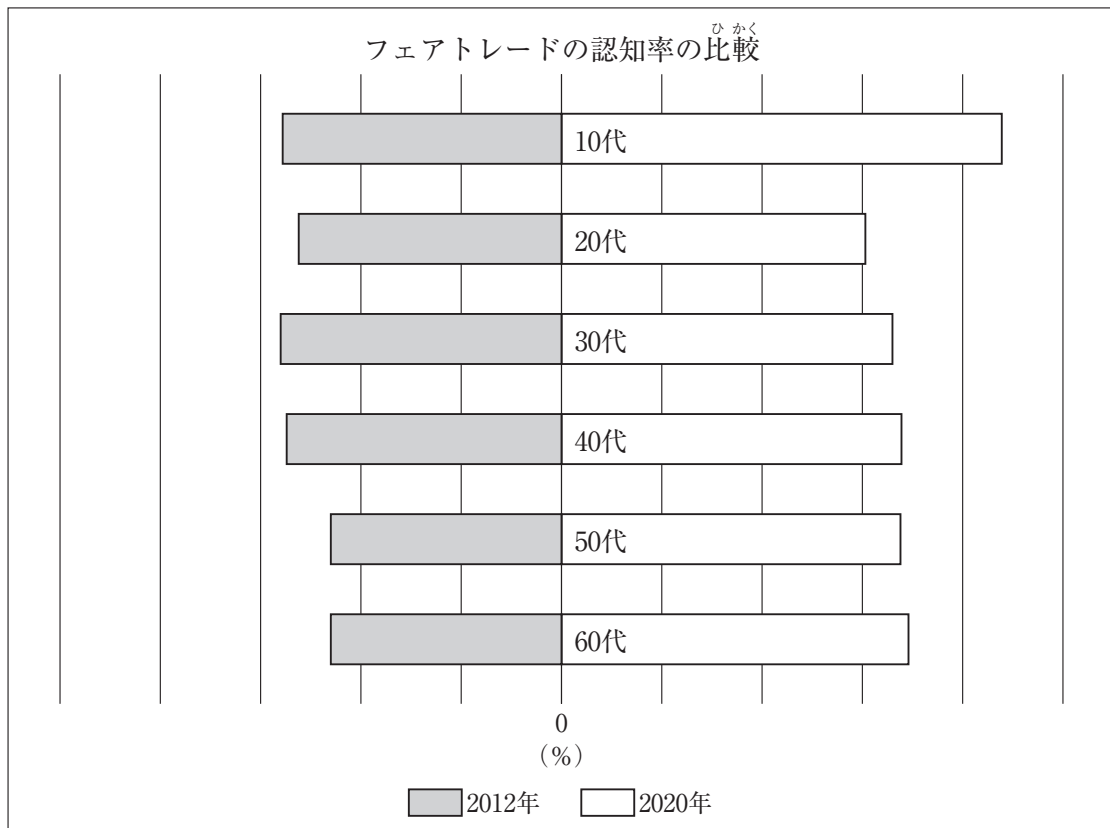
お互いに支え合っているという実感を持てるかもしれない。

ただ、全ての買い物フェアトレードで買わないと、と思う必要はない。そんなことは長続きしないだろう。まずは、10回の買い物で1回程手を伸ばすという「ときどきエシカル」でも、産地にとってよい影響があるはずだ。生活の中で、余裕があるときに産地のことを思いやり、フェアトレード製品を味わってみよう。それで十分、国際的な支え合いになるのだ。

(山本謙治『エシカルフード』より 一部改変)

※1 エシカル……倫理的な。

※2 オーガニック……化学物質を使用せずに作った農産物や、その加工品。



「フェアトレードと倫理的消費（Ⅱ）」より

【意見文】

次は、【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】をもとに、中学一年生のケイコさんが書いた意見文である。

最近、新聞やテレビ、インターネットなどで、フェアトレードという言葉をよく見聞きするようになった。また、スーパーやコンビニなどの食品売り場で、フェアトレード商品を目にすることも増えた。では、私たち消費者は、どのような姿勢でフェアトレード商品と向き合えばよいのだろうか。

ア

なぜなら、フェアトレードであると宣伝されている商品であっても、それが本当にフェアトレード商品であるとは限らないからである。消費者として正しく選ぶために、まずは、国際フェアトレード認証ラベルのマークを覚えておくと便利かもしれない。

問

アについて、ここで、ケイコさんはどのように意見文を書いたと考えられるか。次の①～③を満たすように書きなさい。

- ① 二文構成で、七十字以上八十字以内で書くこと(句読点をふくむ)。なお、文末は「だ・である」体にすること。
- ② 一文目は「確かに」という書き出しで、【資料Ⅱ】から読み取れるフェアトレードの認知率の現状を示すこと。
- ③ 二文目は「しかし」という書き出しで、【資料Ⅰ】をもとに、消費者にとって重要なことという観点から記すこと。

